

20 T1a、T1bの腎がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率

指標の解説

- 臨床病期T1及びT2の腎がんに対して、腹腔鏡下根治的腎摘除術は、近年標準術式の一つになっている。従来の開腹手術と比較した場合手術成績(手術時間、出血量、合併症)は変わらず術後経過(食事、歩行開始までの期間、入院期間、鎮痛剤の使用量)は腹腔鏡手術の方が低侵襲である。当院で低侵襲治療を行っている指標となる。

分子：腎悪性腫瘍(初発)のステージT1aまたはT1bで、

腎(尿管)悪性腫瘍手術を施行した患者数

分母：腹腔鏡下手術を施行した件数

